

モンゴル語訳『無量寿経』の訳語の特徴について

ダワードルジ プルブドルジ

1. 近年、モンゴル語訳経典に関する研究論文はモンゴル国内のみならず、日本をはじめ諸外国において多数報告され、翻訳経典の詳細が明瞭にされつつある。モンゴル語訳経典の多くは、16 世紀以降にチベット語訳経典に基づいて訳されたものが圧倒的に多いと見なされる。

2. 本稿では、モンゴル語訳経典に多く見られる固有名詞や借用語に注目し、訳語や訳風について検討を加えたい。時間の関係上、今回は思想内容の解明や形態などに関しては触れないことにしたい。

3. 取り扱うテキストとして康熙帝版モンゴル語訳大蔵経所蔵の『無量寿経』を使用した。写本に関してはサンクトペテルブルク図書館所蔵の写本大蔵経のカタログを見たが、『無量寿経』は収録されておらず、確認することができなかった。

チベット語訳『無量寿経』の大半の固有名詞はチベット語訳されているのに対し、モンゴル語訳本の場合は、仏弟子や菩薩名などの固有名詞はモンゴル語化されず、サンスクリット語風に還元し、そのまま原語を使用する傾向が見られ、また多数のウイグル語系統の語彙も確認できた。

先行研究では、モンゴル語訳経典に現れるウイグル語系統の語彙や借用語に関して、次のように指摘される。

モンゴル仏教の成立にウイグル仏教が果たした役割は非常に大きく、初期モンゴル仏教の伝搬にはチベット仏教ではなく、ウイグル仏教の影響が強かった。モンゴル語訳経典に見られる借用語の多くはトカラ語を仲介してウイグル語に導入され、更にモンゴル語に引き継がれた。ウイグル仏典はモンゴル人にとっては仏典の翻訳のモデルであって、とりわけ聖語サンスクリットの取り扱いが彼らの最も見習うべき点であった²⁾。

例を挙げると『無量寿経』によく見られる、チベット語の *jig rten gyi khams bde ba jan*/ Skt. *sukhāvātī lokadhātu*/という表現は、モンゴル語で *jiryalang-tu yertincü-yin orun* と訳される。ところが、この *yertincü-yin orun* という術語は、ウイグル語系

モンゴル語訳『無量寿経』の訳語の特徴について (ダワードルジ) (35)

統の言語に属される。その他の借用語も見ると、元朝時代からモンゴルに於いてかなりの頻度でウイグル語系統の仏教用語がウイグル語から導入されたと思われる。また、モンゴル人の言語学者等もサンスクリット語起源の仏教用語に関して、元朝時代より以前に入ったサンスクリット語起源の語彙は、直接ウイグル語から導入されたが、それより以降の語彙はチベット語から導入され、古来のモンゴル人はウイグル語で仏教典籍を唱えていた、と言及している³⁾。

モンゴル語本の解説や経題が一致する点と奥書の記載などから判断すると北京版チベット語訳本を底本とし、訳経されたと推定される。しかし、奥書には訳経僧名や訳経時期の記録はなかったが、チベット語本の奥書に見られるチベット語文のモンゴル語訳が付録されている⁴⁾。

本文の解説を進めると仏弟子名または菩薩名などの一般名詞の多くはサンスクリット語に還元し、そのまま原語を使用する傾向が見られるが、一部の固有名詞はモンゴル語化され、翻訳は統一していない事が見受けられる。下記の表では、モンゴル語本とサンスクリット語本やチベット語本との異同を対比させた。

ケース1 サンスクリット原語風に還元した菩薩名

モンゴル語文 p. 649	チベット語文 p. 271a	サンスクリット語文 p. 1-b
<i>Amin yabi-a-tu</i> <i>Guvanabati kiged</i>	<i>tshe dang ldan pa Ba lang</i> <i>bdag dang/</i>	<i>Gavāmpatinā ca,</i>
<i>Amin yabi-a-tu Ürübila kasiba</i> <i>kiged</i>	<i>tshe dang ldan pa lTeng rgyas</i> <i>'od srung dang/</i>	<i>Uruvilvākāśyapena ca,</i>

ケース2 モンゴル語化した菩薩名

モンゴル語文 p. 650	チベット語文 p. 271a	サンスクリット語文 p. 1-b
<i>Amin yabi-a-tu Sayitur iregči</i> <i>ba,</i>	<i>tshe dang ldan pa Legs 'ongs</i> <i>dang/</i>	<i>Svāgatena ca,</i>
<i>Amin yabi-a-tu Činadu</i> <i>kürügsen ba,</i>	<i>tshe dang ldan pa Pha rol son</i> <i>dang/</i>	<i>Pārāyanikena ca,</i>

ケース3 諸異本とナルタン版との相違点

モンゴル語文の場合 p. 655	チベット語文北京版 の場合 p. 273a	チベット語文ナルタ ン版の場合 p. 226-11	サンスクリット語文 の場合 p. 3-b
om.	om.	<i>de bzhen gshegs pa ri</i> <i>rab dbyangs shes bya</i>	om.

(36) モンゴル語訳『無量寿経』の訳語の特徴について (ダワードルジ)

<i>tegünčilen iregsen dabqučayuluysan sümir ayula ba,</i>	<i>de bzhen gshegs pa ri rab <u>brtsags shes</u> bya ba dang/</i>	<i>ba dang/ de bzhen gshegs pa ri rab <u>brtsegs pa shes</u> bya ba dang/</i>	<i>Sumerukūto nāma,</i>
---	---	---	-------------------------

ケース3の例文に挙げられるナルタン版の *de bzhen gshegs pa ri rab dbyangs shes bya ba dang/* という文は、サンスクリット語本と両訳本に対応するものが確認されなかった。

おそらく、モンゴル語本はナルタン版より北京版『無量寿経』を底本として訳経された可能性が高いと思われる。

ケース4 サンスクリット原語風に還元した菩薩名

モンゴル語文 p. 655	チベット語文 p. 272b	サンスクリット語文 p. 3-a
<i>tegünčilen iregsen tyin daruysan üneker tuyuluysan burqan <u>Dibangyar-a</u> kemegdekü yirtenčü-dor törübi,</i>	<i>de'i tshe de'i dus na de bzhin gshegs pa dgra bcom pa yang dag par rdzogs pa'i sangs rgyas Mar me mdzad ces bya ba 'jig rten du byug ngo//</i>	<i><u>Dīpaṃkaro</u> nāma tathāgato 'rhan samyaksambuddho loka udapāti.</i>

ケース5 サンスクリット原語と異なる表記

モンゴル語文 p. 653	チベット語文 p. 276b	サンスクリット語文 p. 2-c
<i>Ananda-a tegünčilen iregsen-ü nigen <u>binda-i</u> hüsebesü-ber</i>	<i>Kun dga' bo de bzhin gshegs pa bzhed na <u>bsod snyom gcig</u> gis/</i>	<i>ākāṅkṣan Ānanda tathāgata <u>ekapiṇḍapātena</u></i>

ケース4の例文を見ると、モンゴル語訳本はチベット語文の *Mar me mdzad* というチベット語術語を使わず、サンスクリット語風固有名詞を使用している。ケース4,5のいずれも、モンゴル語訳本ではサンスクリット語風の術語を使用しているが、ケース5のサンスクリット語の *piṇḍapā* の“pā”の音素はモンゴル語本訳の *binda* とは綴りが微妙に異なっていることが確認できる。

4. 以上のことを踏まえて、筆者はモンゴル語訳『無量寿経』は北京版チベット語訳本を底本とし、17世紀初期頃訳経されたと見なしている。

今後、翻訳經典の思想内容の解明や形態などについて、さらに研究を進めたい。

- 1) З. К. Касьяненко 1993. 写本自体は Sankt-Peterburg 図書館に所蔵されている。
- 2) 中村健太郎 2007, pp. 71-118 参照. なお, 庄垣内正弘 1990, pp. 157-175 も参照のこと。
- 3) Ж. Төмөрцэрэн 1964, p. 31.

モンゴル語訳『無量寿経』の訳語の特徴について (ダワードルジ) (37)

4) Lokesh Chandra 1977, p. 747.

〈テキスト〉

Chandra, Lokesh. 1977. *Qutuy-tu čaylasi ügei gerelt-i jokiyayči kemeküi yeke kölgen sudur*. Śata-piṭaka Series, Indo-Asian Literatures, Mongolian Kanjur, volume 48. New Delhi: published by Mrs. Sharada Rani, 648–747.

ᠬᠢᠫᠤᠭᠤᠯᠤᠰᠤ ᠠᠨᠤ ᠳᠠᠫᠤᠮᠡᠳᠤᠬᠢ ᠪᠬᠣᠳᠤᠯᠤᠰᠤ ᠰᠢᠬᠤᠪᠠᠭᠤᠪᠠ ᠲᠡᠭᠤᠯᠤᠰᠤ ᠴᠡᠨᠠᠯᠤᠮᠣ. 北京版『西藏大蔵経』Bkaḥ-ᠬgyur, Dkon-brtsegs, Tshi 269b–271b.

〈参考文献〉

Ligeti, Louis. 1942. *Catalogue du Kanjur Mongol Imprimé*. Budapest: Société Kőrösi Csoma.

庄垣内正弘 1990 「モンゴル語訳仏典中のウイグル語仏教用語について」『アジアの諸語と一般言語学』三省堂, 157–175.

Касьяненко, З. К. 1993. *Каталог Петербургского Рукописного «ганджура»*. Москва: Издательская Фирма “Восточная Литература.”

Chandra, Lokesh. 1977. *Qutuy-tu čaylasi ügei gerelt-i jokiyayči kemeküi yeke kölgen sudur*. Śata-piṭaka Series, Indo-Asian Literatures, Mongolian Kanjur, volume 48. New Delhi: published by Mrs. Sharada Rani, 648–747.

香川孝雄 1984 『無量寿経の諸本対照研究』永田文昌堂.

中村健太郎 2007 「ウイグル語仏典からモンゴル語仏典へ」『内陸アジア言語の研究』22: 71–118.

藤田宏達 (校訂) 2011 『梵文無量寿経・梵文阿弥陀経』法蔵館.

Ж. Төмөрцэрэн. 1964. *Орчин цагийн монгол хэлний үгийн сангийн судлал*. Studia Mongolica instituti linguae et litterarum academiae scientiarum reipublicae populi mongoli, Tomus 5. Улаанбаатар: Шинжлэх ухааны Академийн Хэвлэл, 30–31.

〈キーワード〉 モンゴル語訳経典, カンギユル, 『無量寿経』, ウイグル語
(佛敎大学大学院)